

第2次北九州市生物多様性戦略の 進捗報告（令和6年度実績）について

環境局ネイチャーポジティブ推進課

本市の生物多様性に関するこれまでの取組

- 平成17年9月、政令市で初めて、自然環境保全の基本計画である「北九州市自然環境保全基本計画」を策定
- 平成22年11月、生物多様性基本法の制定を受けて、北九州市自然環境保全基本計画を改訂する形で「北九州市生物多様性戦略」を策定
- 平成28年3月、生態系サービスや生物多様性の危機等の新しい視点を盛り込んだ「第2次北九州市生物多様性戦略」を策定

第2次北九州市生物多様性戦略の構成

《2015年度～2024年度》

- ◆ 基本理念：都市と自然との共生
～豊かな自然の恵みを活用し自然と共生するまち～
- ◆ 5つの基本目標と12の方向性、60の基本施策を設定

基本目標		方向性	
1	自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透	1	自然環境にふれあう機会の創出
		2	農林水産業の活性化と地産地消を通じたふれあいの推進
		3	里地里山の利用と活用
2	地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成	4	環境教育・学習の推進、普及啓発
		5	自然環境に精通した人材の育成
3	自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮	6	生態系ネットワークの形成
		7	地域固有の生態系の保全と利用
		8	希少種の保全及び外来種の対策
4	人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じていく状態の維持	9	自然と調和した都市基盤整備の促進
		10	事業の実施に伴う環境配慮
5	自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用	11	自然環境調査の実施とデータベースの構築
		12	市民参加による自然環境情報の収集

2

戦略の推進に向けた数値目標

基本目標1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

番号	項 目	単位	目標値（年度）
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	人	6,500(2020)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	人	4,000(2020)
3	自然環境体感ツアーの参加人数	人	500(2019 累計)

基本目標2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

番号	項 目	単位	目標値（年度）
1	小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	校	25(2024)
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	人	4,000(2020)

基本目標3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

番号	項 目	単位	目標値（年度）
1	自然環境保全に取り組む団体への支援件数	件	10(2024)
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	人	約2,000(2024)

基本目標4 人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じていく状態の維持

番号	項 目	単位	目標値（年度）
1	環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数	本	1,000,000 (2024累計)
2	市街地(市街化区域)の緑の確保	%	9.5(2020 累計)

基本目標5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

番号	項 目	単位	目標値（年度）
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	回	3(2020)
2	曽根干潟における生物調査の実施	回	4(2020)

3

基本目標 1

自然とのふれあいを通じた
生物多様性の重要性の市民への浸透

※ エコツアーに関しては、計画策定時に多くの来場者を見込んでいた東田地区スマートコミュニティ創造事業関連のエコツアーが、同事業終了後、大幅に減少したことが主な原因

◆数値目標

	項 目	目標値(年度)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)
1	本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500人 (2020)	2,811	3,269	2,698
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000人 (2020)	4,723	4,244	5,498
3	自然環境体感ツアーの参加人数	500人 (2019 累計)	1,039	960	879 (2019時点579)

◆基本施策に基づく主な取組



カブトガニ産卵観察ツアー



ガシャモク観察会

4

基本目標 2

地球規模の視野を持って
行動できるような高い市民環境力の醸成

※ 目標策定時には市内全校で実施されていた環境体験科が希望制となったことや、選択肢が増えたこと（スペースラボ等）による減少

◆数値目標

	項 目	目標値（年度）	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)
1	小学校の環境体験科における響灘ビオトープの活用校数	25校 (2024)	14	16	25
2	響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000人 (2020)	4,723	4,244	5,498

◆基本施策に基づく主な取組



響灘ビオトープでの環境体験科（アクティブラーニング）



5

基本目標 3

自然環境の適切な保全による、
森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

◆数値目標

	項 目	目標値 (年度)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)
1	自然環境保全に取り組む団体への支援 件数	10件 (2024)	9	11	9
2	「北九州市自然環境保全ネットワークの 会」参加団体等が開催する自然環境保全 活動参加者数	約2,000人 (2024)	約2,700	約3,400	約2,500

◆基本施策に基づく主な取組



市民団体によるガシャモク観察会



自然講演会

6

基本目標 4

人と自然の関係を見直し、自然から
多くの恵みを感じることができる状態の維持

◆数値目標

	項 目	目標値 (年度)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)
1	環境首都100万本植樹プロジェクトによる 植樹本数	1,000,000本 (2024 累計)	820,527	800,070	784,926
2	市街地（市街化区域）の緑の確保	9.5% (2020 累計)	8.5	8.5	8.5

※ 目標設定当初見込んでいた、市内の開発や工場進出に伴う法定緑地確保が伸び悩んだことや、緑の基本計画において緑の量の確保より質の確保へと方針転換したことから、達成度は8割程度となった。

◆基本施策に基づく主な取組



植樹会



都市公園（勝山公園）

7

基本目標 5

自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

◆数値目標

	項 目	目標値 (年度)	2024 (R6)	2023 (R5)	2022 (R4)
1	ベッコウトンボ市民調査実施回数	3回 (2020)	6	6	7
2	曽根干潟における生物調査の実施	4回 (2020)	6	8	8

◆基本施策に基づく主な取組



曽根干潟の鳥類調査



市民参加によるベッコウトンボ頭数調査

8

本戦略の総合評価

- 本戦略に掲げている基本目標の達成に向けた60の基本施策は、戦略期間の間に全ての取組を実施した。
- 多くの事業について、概ね「順調」に進捗したが、幅広く市民への認知度を高め、さらにその活動の広がりを促進することや緑地の確保について、単なる量の確保ではなく、回復に向けた取組を評価する「自然共生サイト」等の新しい考え方に基づいた戦略が必要である。
- これを受け、新戦略では「都市と自然の共生」という基本理念は受け継ぎながら、新たな世界的目標である「ネイチャーポジティブ」の概念を導入したものにする。

9

新戦略（北九州市生物多様性戦略2025-2030）の策定

- 令和7年5月に新しい生物多様性戦略を策定
- 新戦略では、
 - （１）生物多様性を大切にする価値観の形成
 - （２）生物多様性の適切な保全と回復
 - （３）自然を活用した多様な課題の解決の3つの視点から、北九州市の都市と近接する豊かな自然「アーバンネイチャー北九州」の魅力発信やネイチャーポジティブの取組強化を進めている
- 環境学習施設を束ね、北九州ネイチャーポジティブセンターを設立
- 読んで楽しい行政計画をコンセプトに、市民に届く戦略を作成



アーバンネイチャー
北九州

10

新戦略の取組① 市民に届く戦略

- 読んで楽しい行政計画を目指し、デザイン性や読みやすさも重視し、コンパクトにまとめた。
- 策定期間中にフォトコンテストを開催し、応募作品を冊子に使用したほか、商業施設で実施した受賞作品展で冊子を配布する等、市民の関心を集める仕掛けを実施した。



11

新戦略の取組② ポータルサイトの開設

- ネイチャーポジティブセンターの取組を一体的に発信。（局横断の取組）
- アーバンネイチャー北九州の魅力を発信することを目的としたフリー素材を公開。

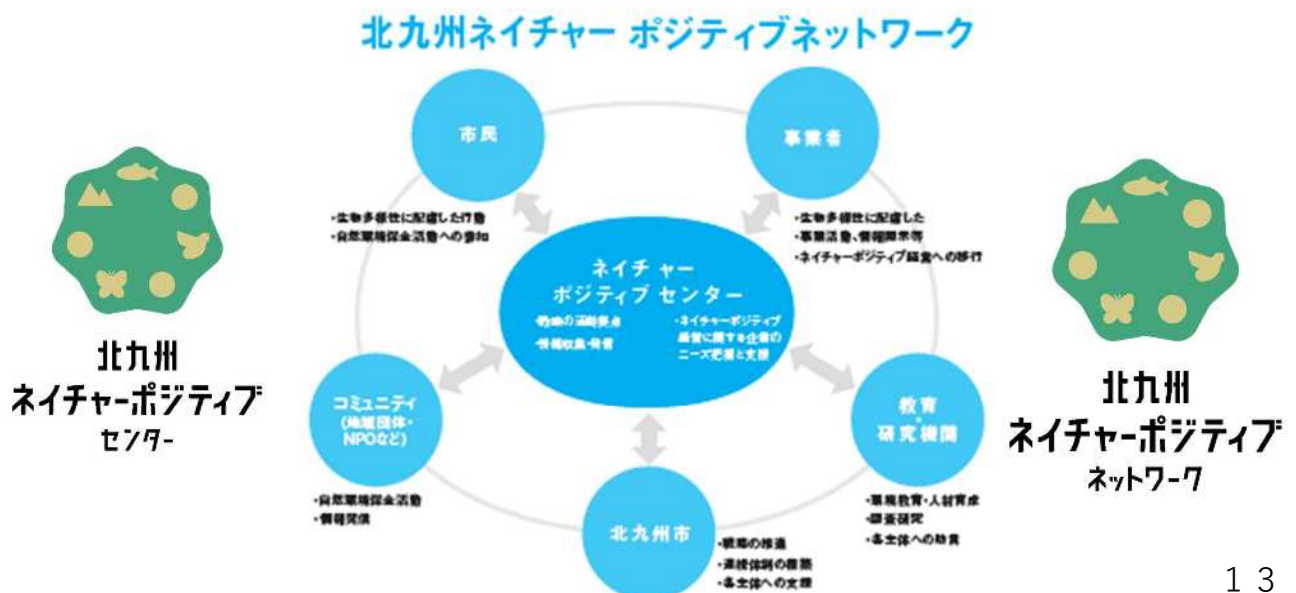


1 2

新戦略の取組③

ネイチャーポジティブセンター・ネットワーク設立

- 5月22日に市内環境学習施設群を束ね、戦略推進に向けた活動拠点として、北九州ネイチャーポジティブセンターを設置
- 11月14日に産学官民が連携して取組を推進する体制を構築するため、北九州ネイチャーポジティブネットワークを創設



1 3